平成３０年度中学生チャレンジテスト
（第3学年）結果について

柏原市教育委員会

１. 調　査　目　的

（１）　大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。

（２）　大阪府教育委員会が、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

（３）　市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。

（４）　学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。

（５）　生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

２. 調　査　概　要

（１）　調査日　　平成３０年９月６日（木）

（２）　対象学年　　中学校第３学年全生徒

（３）　調査内容　　国語・社会・数学・理科・英語・アンケート調査

★調査問題掲載先

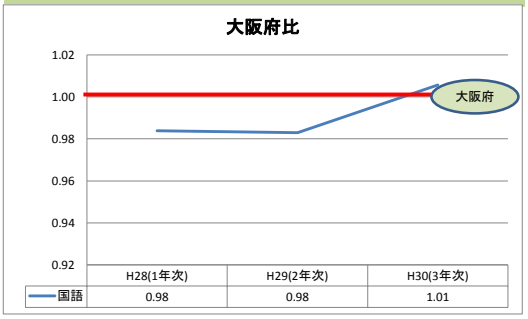
URL : http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/challenge-30-mondai.html

3－1. 国語科調査結果

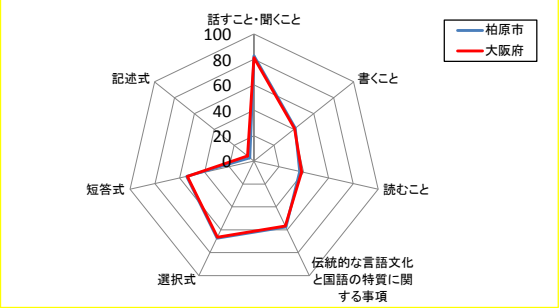
	平均正答率(%)
柏原市	53.3
大阪府	53.0

分類	区分	対象設問数(問)	正答率	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	82.9	81.4
	書くこと	5	41.5	40.9
	読むこと	11	36.8	38.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	15	57.6	56.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	―	―	―
	話す・聞く能力	4	82.9	81.4
	書く能力	5	41.5	40.9
	読む能力	11	36.8	38.5
	言語についての知識・理解・技能	15	57.6	56.7
問題形式	選択式	9	67.3	66.5
	短答式	20	54.3	53.8
	記述式	2	4.2	6.6

★同一生徒集団の経年比較（平成28年度～平成30年度）



◆領域別等のレーダーチャート

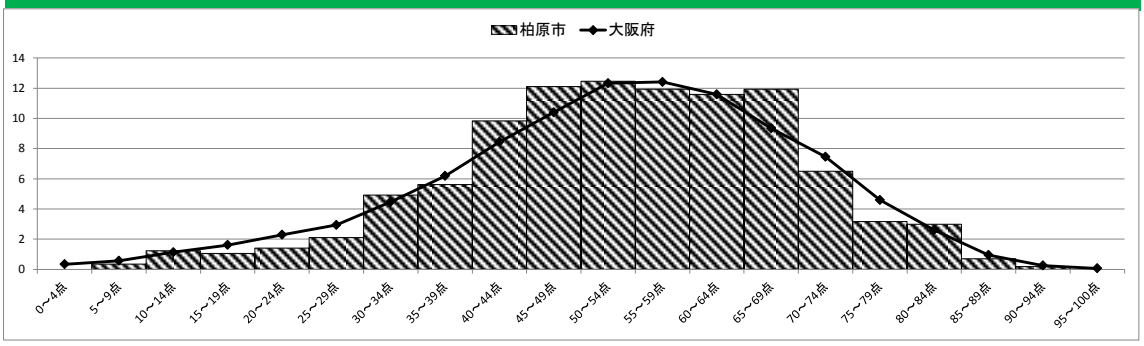


◆特徴的な傾向

○学習指導要領の領域等において、「読むこと」以外の領域で大阪府を上回る結果となった。
○同一生徒集団の経年比較（平成28～30年度）においても、今年度は一昨年度及び昨年度の府比を超え、平均正答率も上回った。
▼記述式の問題の正答率が低いのが課題である。
○得点別分布では、「0点～29点」までの区分において、大阪府の割合よりも少ない結果となった。
▼「70点～100点」までの区分において、大阪府の割合より少ない傾向がある。
○生徒アンケート項目の「国語の授業の内容はよく分かる」では、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した生徒の和がこの3年間で最も多く、初めて大阪府を上回る結果となった。

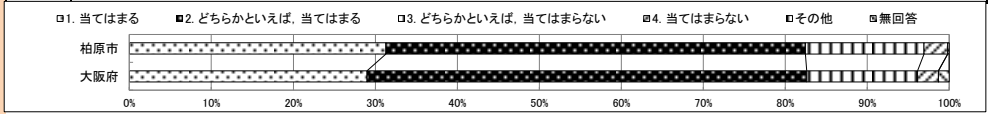
※ ○印：成果　▼印：課題

◆得点別分布の割合



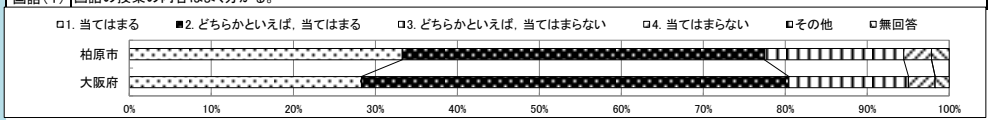
平成28年度（1年次）

質問番号	質問事項
国語（1）	国語の授業の内容はよく分かる。



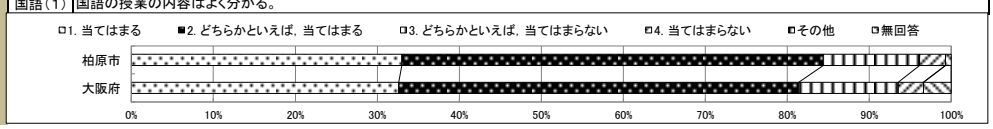
平成29年度（2年次）

質問番号	質問事項
国語（1）	国語の授業の内容はよく分かる。



平成30年度（3年次）

質問番号	質問事項
国語（1）	国語の授業の内容はよく分かる。

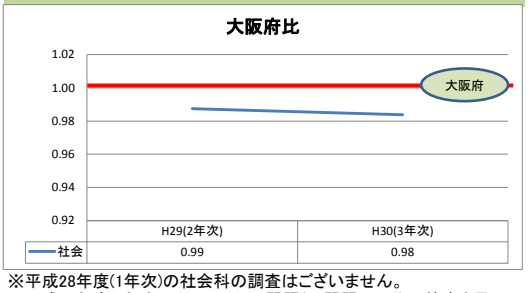


3－2. 社会科調査結果

	平均正答率(%)
柏原市	48.7
大阪府	49.5

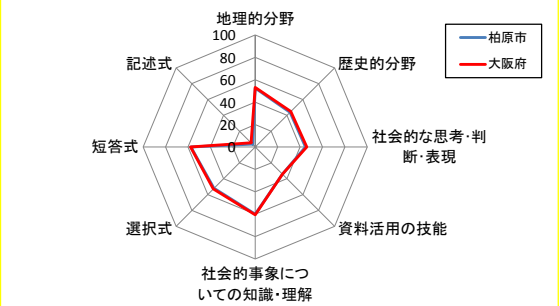
分類	区分	対象設問数(問)	正答率	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	地理的分野	19	52.7	53.2
	歴史的分野	18	43.8	44.9
評価の観点	社会的事象への関心・意欲・態度	―	―	―
	社会的な思考・判断・表現	22	44.8	45.8
	資料活用の技能	3	34.4	34.2
	社会的事象についての知識・理解	12	60.0	60.6
問題形式	選択式	29	52.2	52.9
	短答式	6	57.5	57.9
	記述式	2	3.5	5.4

★同一生徒集団の経年比較（平成28年度～平成30年度）



※平成28年度(1年次)の社会科の調査はございません。
※平成29年度(2年次)については、A問題とB問題の平均正答率を足して2で割った数値で表している。

◆領域別等のレーダーチャート

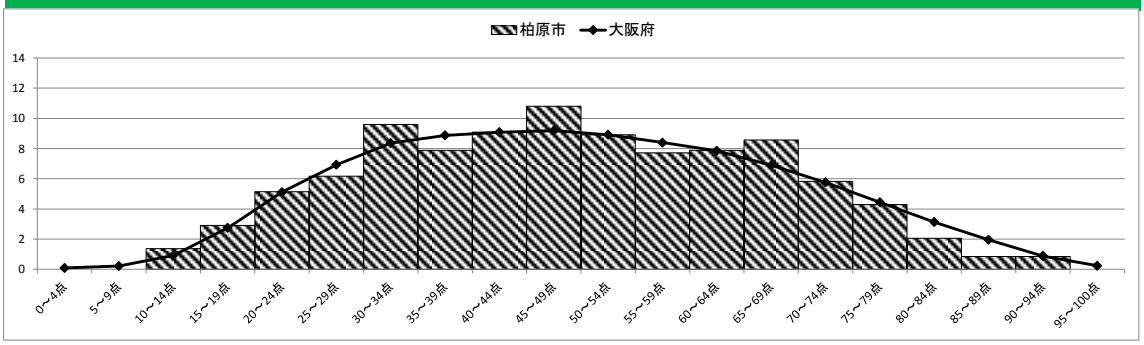


◆特徴的な傾向

▼学習指導要領の領域等において、「地理的分野」・「歴史的分野」共に大阪府を僅かに下回る結果となった。
▼同一生徒集団の経年比較（平成29年度～平成30年度）でも、昨年度より少し下回った。
▼得点別分布では、「75点～100点」までの区分において、大阪府の割合よりも少ない結果となった。
○生徒アンケート項目の「社会の授業はよく分かる」では、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した生徒が、2年続けて大阪府を上回り、今年度はより割合が高くなった。

※ ○印：成果　▼印：課題

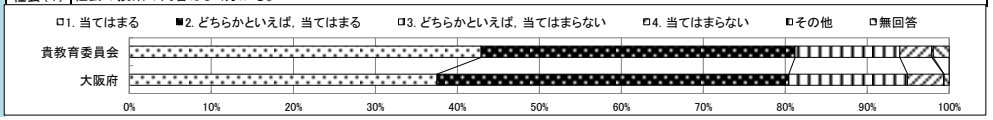
◆得点別分布の割合



※平成28年度(1年次)の社会科の調査はございません。

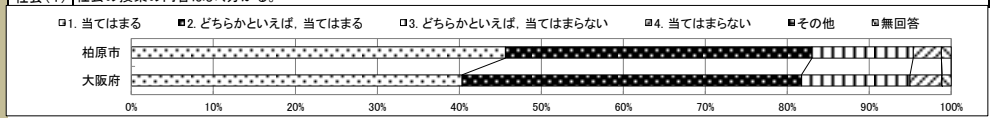
平成29年度（2年次）

質問番号	質問事項
社会（1）	社会の授業の内容はよく分かる。



平成30年度（3年次）

質問番号	質問事項
社会（1）	社会の授業の内容はよく分かる。

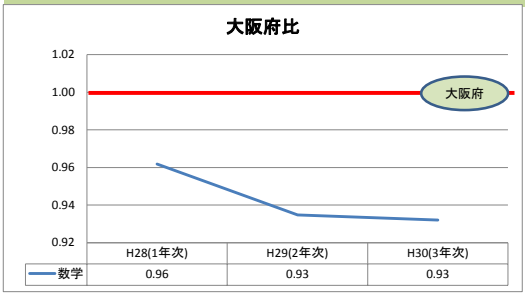


3－3. 数学科調査結果

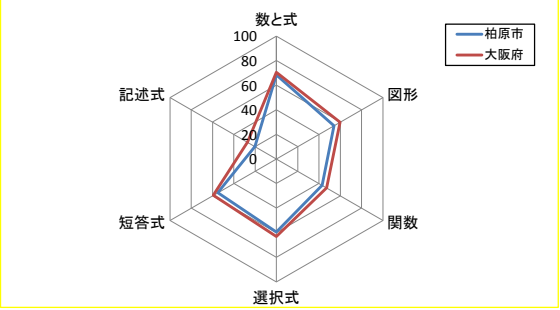
	平均正答率(%)
柏原市	54.9
大阪府	58.9

分類	区分	対象設問数(問)	正答率	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	数と式	9	68.3	70.5
	図形	8	54.1	59.6
	関数	9	43.0	47.1
	資料の活用	5	53.5	58.3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	―	―	―
	数学的な見方や考え方	6	32.3	36.3
	数学的な技能	14	58.9	63.0
	数量や図形などについての知識・理解	11	61.9	65.8
問題形式	選択式	13	59.5	63.1
	短答式	16	55.1	59.2
	記述式	2	20.2	27.2

★同一生徒集団の経年比較（平成28年度～平成30年度）



◆領域別等のレーダーチャート

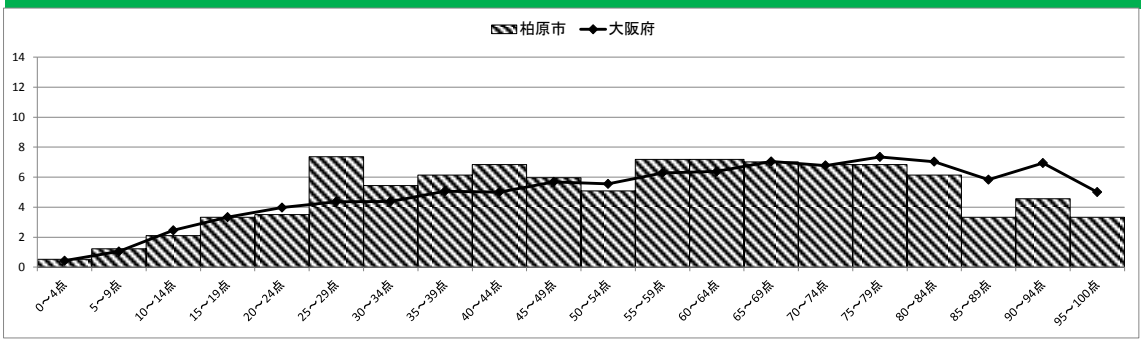


◆特徴的な傾向

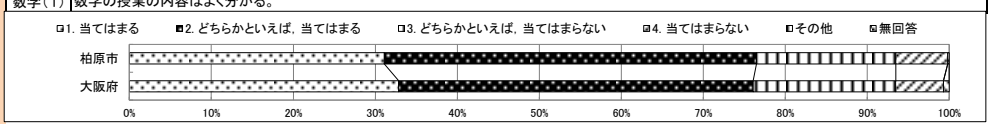
▼学習指導要領の領域等において、全ての領域で大阪府を下回る結果となり、特に図形の領域で差が見られた。
▼記述式の問題についても課題が大きい。
▼同一生徒集団の経年比較（平成28年度～平成30年度）においても、昨年度同様、府比を下回る結果となった。
▼得点別分布では、「75点～100点」までの区分において、大阪府の割合を下回った。
▼生徒アンケート項目の「数学の授業はよく分かる」では、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した生徒の和が、1年次には大阪府を上回る結果であったのに対し、2年次及び3年次では大阪府を下回った。
〇2年次のアンケート結果よりは肯定的な回答の割合が増えた。

※ 〇印：成果　▼印：課題

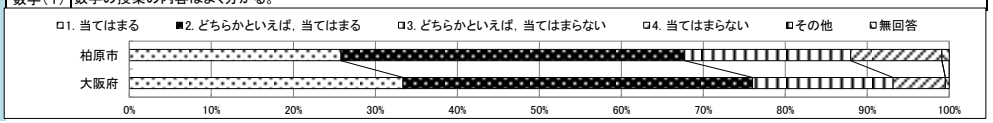
◆得点別分布の割合



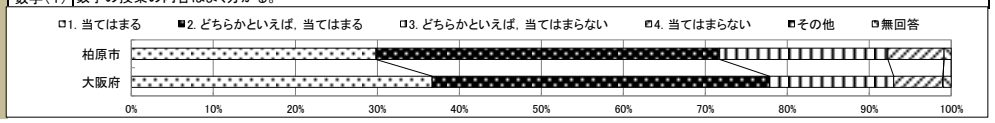
	質問番号	質問事項
平成28年度（1年次）	数学（1）	数学の授業の内容はよく分かる。



	質問番号	質問事項
平成29年度（2年次）	数学（1）	数学の授業の内容はよく分かる。



	質問番号	質問事項
平成30年度（3年次）	数学（1）	数学の授業の内容はよく分かる。

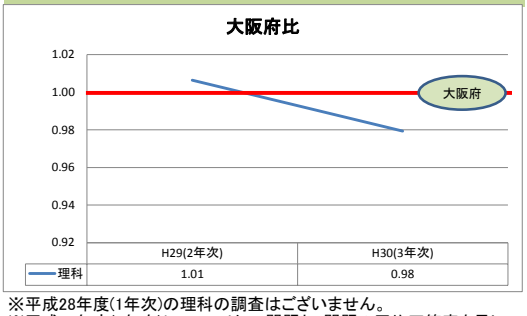


3－4. 理科調査結果

	平均正答率(%)
柏原市	56.8
大阪府	58.0

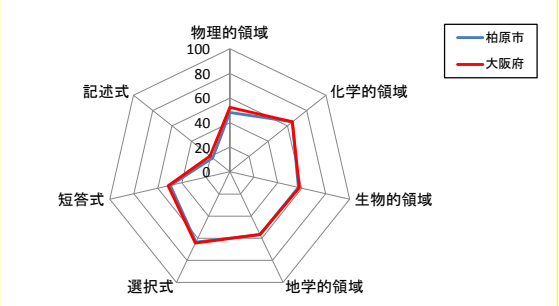
分類	区分	対象設問数(問)	正答率	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	物理的領域	9	48.3	52.5
	化学的領域	9	65.1	65.2
	生物的領域	9	57.3	58.0
	地学的領域	8	56.7	56.6
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	—	—	—
	科学的な思考・表現	15	45.5	46.8
	観察・実験の技能	2	67.7	66.3
	自然事象についての知識・理解	18	65.0	66.6
問題形式	選択式	23	63.4	64.3
	短答式	9	49.6	51.5
	記述式	3	18.0	20.6

★同一生徒集団の経年比較（平成28年度～平成30年度）



※平成28年度(1年次)の理科の調査はございません。
※平成29年度(2年次)については、A問題とB問題の平均正答率を足して2で割った数値で表している。

◆領域別等のレーダーチャート

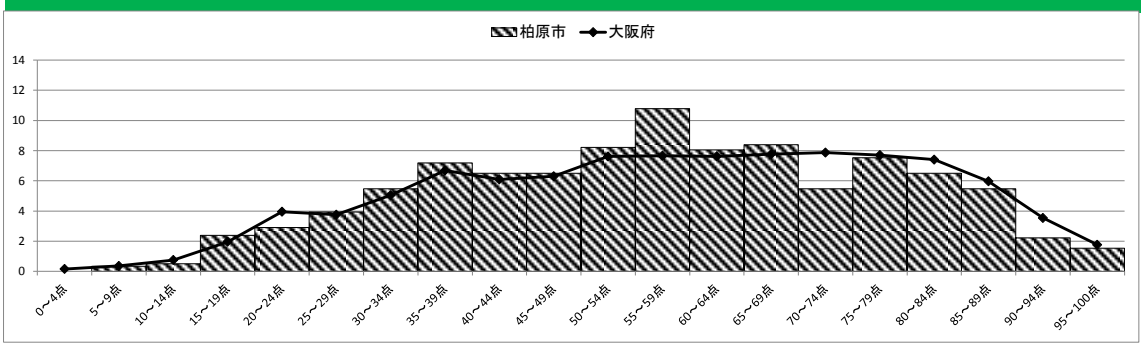


◆特徴的な傾向

○学習指導要領の領域等において、「地学的領域」で大阪府を上回る結果となった。また、評価の観点「観察・実験の技能」においても大阪府を上回った。
▼同一生徒集団の経年比較（平成29年度～平成30年度）では、昨年度は府比を超えていたが、今年度は府比を下回った。
▼得点別分布では、「70点～100点」までの区分において、大阪府の割合を下回った。
○平均正答率付近の「55点～59点」の区分では、大阪府の割合を上回った。
○生徒アンケート項目の「理科の授業はよく分かる」では、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した生徒が、2年続けて大阪府を上回った。

※ ○印：成果　▼印：課題

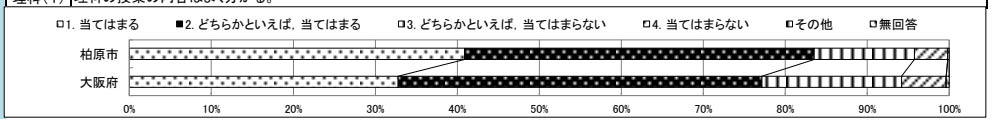
◆得点別分布の割合



※平成28年度(1年次)の理科の調査はございません。

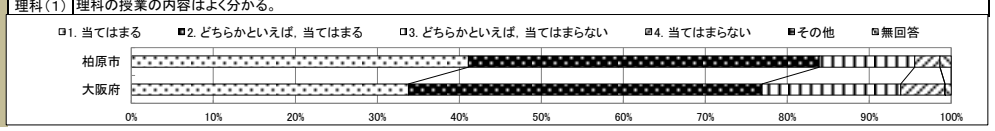
平成29年度（2年次）

質問番号	質問事項
理科（1）	理科の授業の内容はよく分かる。



平成30年度（3年次）

質問番号	質問事項
理科（1）	理科の授業の内容はよく分かる。

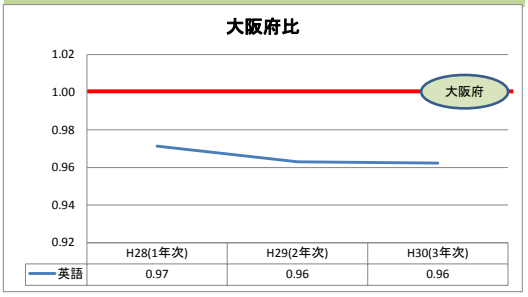


3－5. 外国語（英語）科調査結果

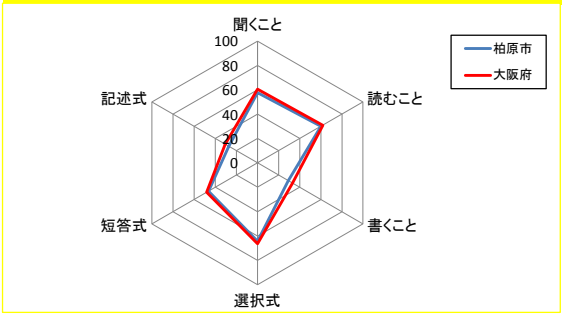
	平均正答率（%）
柏原市	56.3
大阪府	58.5

分類	区分	対象設問数(問)	正答率	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	聞くこと	12	57.7	60.4
	話すこと	―	―	―
	読むこと	30	60.2	61.9
	書くこと	3	29.3	33.2
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	―	―	―
	外国語表現の能力	3	29.3	33.2
	外国語理解の能力	33	58.9	61.0
	言語や文化についての知識・理解	6	60.2	62.3
問題形式	選択式	33	64.3	66.3
	短答式	4	46.4	48.2
	記述式	4	27.2	30.7

★同一生徒集団の経年比較（平成28年度～平成30年度）



◆領域別等のレーダーチャート

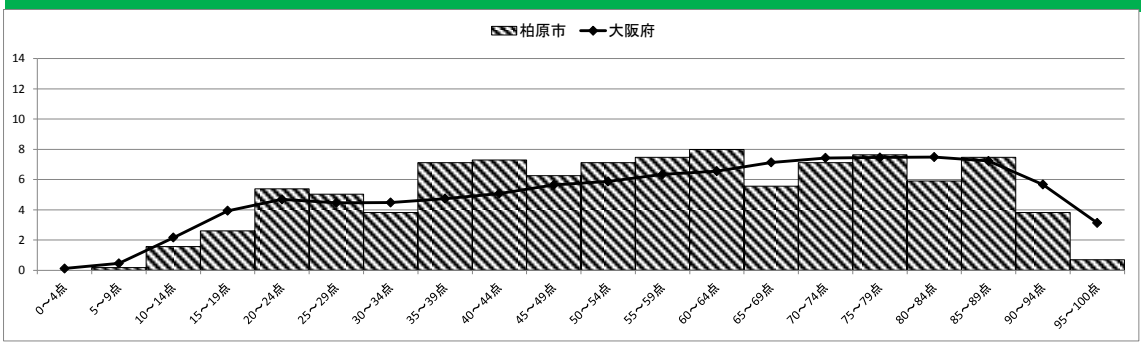


◆特徴的な傾向

▼学習指導要領の領域等において、全ての領域で大阪府を下回る結果となった。
▼記述式の問題の正答率が低いのが、課題である。
▼同一生徒集団の経年比較（平成28年度～平成30年度）においても、昨年度同様、府比を下回る結果となった。
▼得点別分布では、「65点～100点」までの区分において、大阪府の割合よりも下回る箇所が多い。
▼生徒アンケート項目の「英語の授業はよく分かる」では、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した生徒の和が、1年次と2年次では大阪府を上回る結果であったのに対し、3年次では大阪府を僅かに下回った。
○2年次のアンケート結果よりは肯定的な回答の割合がやや増えた。

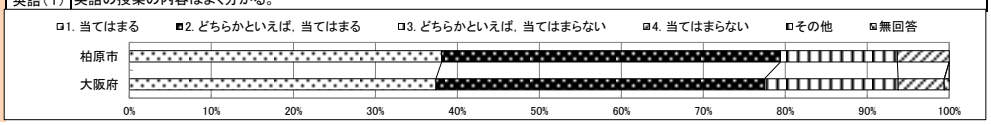
※ ○印：成果　▼印：課題

◆得点別分布の割合



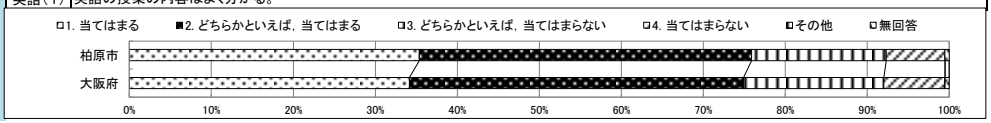
平成28年度（1年次）

質問番号	質問事項
英語（1）	英語の授業の内容はよく分かる。



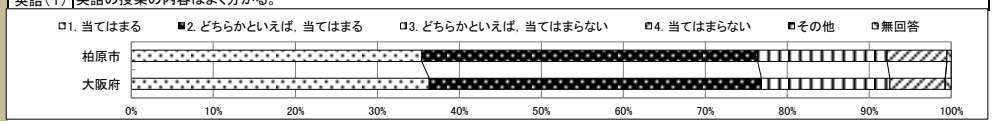
平成29年度（2年次）

質問番号	質問事項
英語（1）	英語の授業の内容はよく分かる。



平成30年度（3年次）

質問番号	質問事項
英語（1）	英語の授業の内容はよく分かる。



4－1. 国語科における課題の見られた問題について

学習指導要領の領域等

読むこと

平均正答率等

四　5	平均正答率	無回答率
柏原市	1.8%	43.3%
大阪府	2.8%	45.8%

正答　ほんとうの意味

四　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文は、抽象的な概念を表すことばを、子どもがどのように理解することができるようになるのかについて、「愛」を例にあげて説明をしています。

著作権者への配慮から掲載を控えております。

5　次の文は、――線部③に施されている、、、、、の表記について説明したものです。［D］に入る最も適している言葉を本文中から**七字**で抜き出し、文を完成させなさい。

この表記は、そのことばがもつ定義としての意味を表すのではなく、関連することばと区別した上で理解された［D］ということを強調したものである。

傍点の働きの説明文に入る適切な言葉を、本文中から抜き出して完成させる問題であり、文章全体と部分との関係を考え、内容の理解ができているかを問う問題となっている。

指導に当たっては、目的に応じた材料を分類するなどして整理・取捨選択し、文章全体を通して伝えたいことや意見などが読み手に伝わるかを考えて活動することが重要である。

4－2. 社会科における課題の見られた問題について

学習指導要領の領域等

地理的分野

平均正答率等

4(5)②	平均正答率	無回答率
柏原市	2.7%	31.6%
大阪府	5.4%	29.4%

正答　[例]東ヨーロッパに多く、1995年までにEUに加盟した国と比べて、一人当たりの国民総所得が低い国が多い。加盟国内で地域によって経済格差がある。

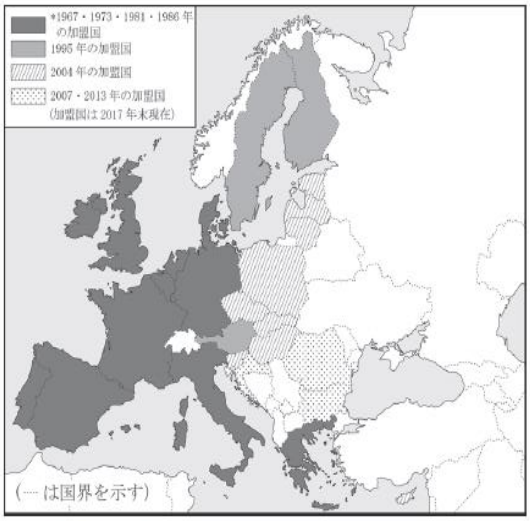
(5)　つばささんは，ＥＵ（ヨーロッパ連合）の加盟国について調べ，ＥＵの拡大の様子を**図Ⅲ**に，ＥＵ加盟国の加盟年と 2015 年の一人当たりの国民総所得（1 年間に国民が国内・海外で得た全所得のことで，国の経済力をはかる重要な指標の一つ）を**図Ⅳ**に，それぞれまとめました。あとの問いに答えなさい。

①　多くのＥＵ加盟国で導入されているＥＵの共通通貨（単一通貨）を何と呼びますか。書きなさい。

②　つばささんは**図Ⅲ**と**図Ⅳ**を見ながら，1995 年までにＥＵに加盟した国と 2004 年以降にＥＵに加盟した国とを比較して，あとの文にまとめました。

【つばささんのまとめ】には，**図Ⅲ**と**図Ⅳ**から読み取れる内容が二つと，読み取った内容からわかる，ＥＵの課題がまとめられています。［　　］に入る適切なことばを **40 字以上，70 字以内**で書き，**【つばささんのまとめ】**を完成させなさい。なお，数字を使う場合，２けた以上の数字は，１字とすること。

図Ⅲ　ＥＵ加盟国の拡大の様子

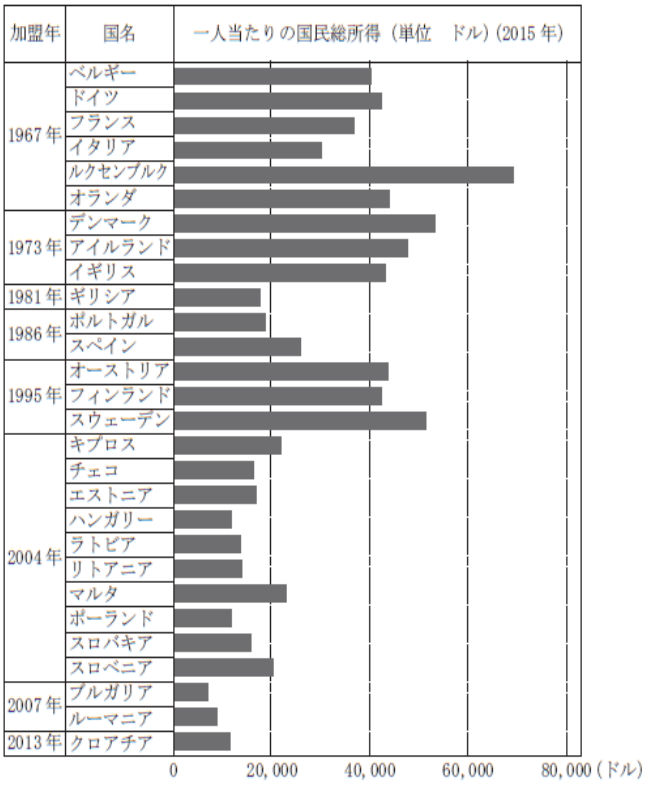


＊ＥＵ発足の基盤になった組織であるＥＣに加盟した年。

（ドイツはＥＣ加盟時，西ドイツ。旧東ドイツは，1990 年のドイツ統一にともない，ＥＣに編入された。）

（『世界国勢図会 2016／2017』により作成）

図Ⅳ　ＥＵ加盟国の加盟年と一人当たりの国民総所得



（『世界国勢図会 2017/2018』により作成）

【つばささんのまとめ】

図Ⅲ，**図Ⅳ**より，1995 年までにＥＵに加盟した国と 2004 年以降にＥＵに加盟した国とを比較すると，2004 年以降にＥＵに加盟した国は，

［　　］

ことが課題である。

ヨーロッパ連合(EU)加盟国について、図を見ながら2004年以降の加盟国とそれ以前の加盟国とを比較し、2004年以降の加盟国の拡大に伴うヨーロッパ連合(EU)の課題について説明することができることを問う問題となっている。この問題は、教科書にも掲載されているものであり、授業において資料を提示しそこから読み取れることを発表したり考えたことを交流し書かせる等の活動が必要である。

４－３. 数学科における課題の見られた問題について

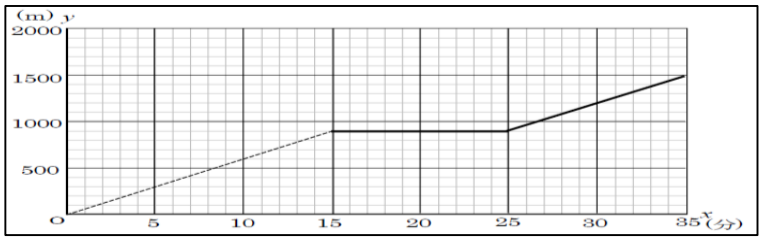
学習指導要領の領域等

関数

平均正答率等

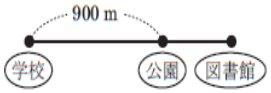
8（4）	平均正答率	無回答率
柏原市	5.8%	28.6%
大阪府	10.2%	30.8%

正答



8 さちこさんとあきらさんは２人で調べ物をするために放課後に図書館へ行くことにしました。あきらさんは用事があったので，遅れて学校を出発することにし，学校から 900 m のところにある途中の公園で待ち合わせることにしました。（図１）

図１



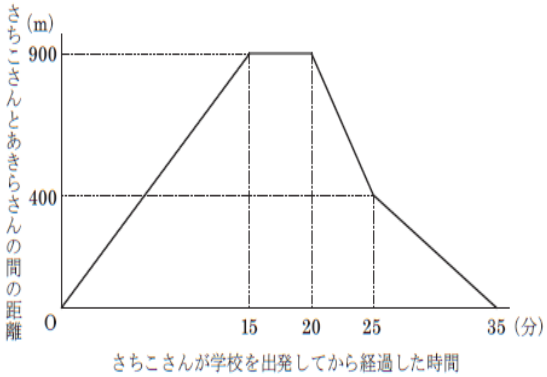
さちこさんは午後４時ちょうどに学校を出発して，一定の速さで歩き公園に着きました。しばらく待っていましたが，あきらさんがなかなか来なかったので，学校から公園まで歩いた速さと同じ速さで図書館まで１人で歩きました。

あきらさんは，さちこさんと同じ道を途中で休むことなく，一定の速さで図書館まで向かったところ，午後４時 35 分ちょうどに，さちこさんと同時に図書館に着きました。

さちこさんが学校を出発してから経過した時間と，さちこさんとあきらさんの間の距離の関係をグラフに表すと，図２のようになりました。

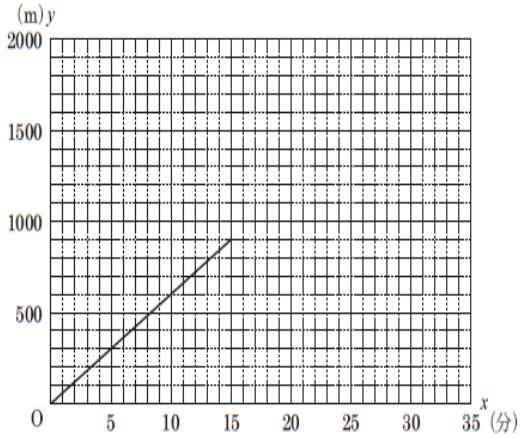
学校，公園，図書館はいずれも同じ道沿いにあるものとして，あとの(1)～(4)の問いに答えなさい。

図２



(4) 図３は，さちこさんが学校を出発してから x 分後の学校からの道のりを y m とするとき，さちこさんが学校を出発して図書館に到着するまでの x と y の関係を，グラフに表した一部です。x の変域が $15 \leqq x \leqq 35$ のときのグラフを書き加え，図３のグラフを完成しなさい。

図３



グラフから読み取った情報を基に、さちこさんが学校を出発してからの時間 x と学校からの道のり y の関係を、x の変域が 15≦ x≦35 のときのグラフを書く問題であり、事象に対応させて解釈し、2つの数量の関係をグラフに書けるかを問う問題となっている。

授業では、具体的な事象を式やグラフに表したり、根拠となるものを明らかにし、筋道を立てて説明するような活動を取り入れることが必要である。

４－４．理科における課題の見られた問題について

学習指導要領の領域等

地学的領域

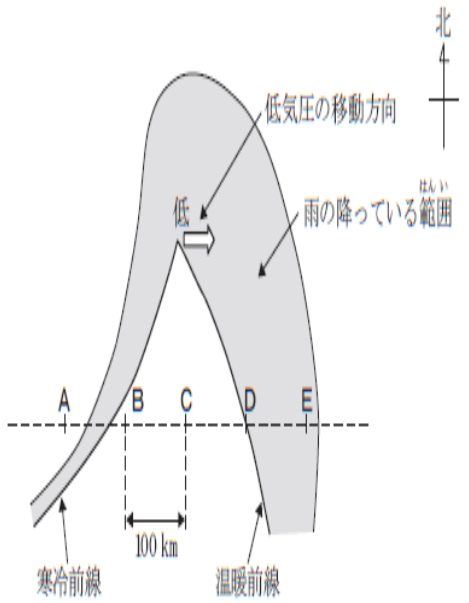
平均正答率等

6(3)②	平均正答率	無回答率
柏原市	8.7%	15.9%
大阪府	9.4%	17.6%

正答　30

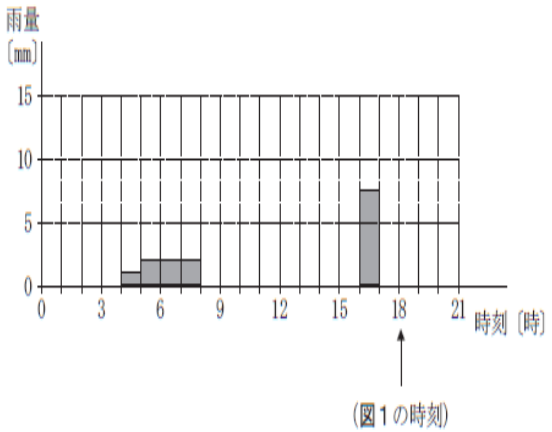
6 図1は，ある日の18時に日本付近にあった低気圧を，真上から模式的に示した図です。図1中のA～Eの各地点は直線上にあり，それぞれ東西方向に100kmずつ離れています。この日の18時に，温暖前線がD地点をちょうど通過しました。また，この日，低気圧は西から東へ移動し，0時から21時まで，A～Eの各地点を通る直線上では，前線がそれぞれ一定の速さで西から東へ移動しました。(1) ～ (3) の各問いに答えなさい。

図1　ある日の18時の低気圧を真上から模式的に示した図



(3) 次の図2は，図1と同じ日の0時から21時までのA地点における1時間ごとの雨量を表しています。この日，A地点では，4時から8時，16時から17時の間は雨が降り続いていました。

図2　A地点における1時間ごとの雨量



① 図1と図2から考えると，図1中の寒冷前線は，A地点を何時ごろ通過しましたか。次のア～エのうち，最も適しているものを一つ選びなさい。

ア　4時ごろ　イ　8時ごろ　ウ　16時ごろ　エ　17時ごろ

② 図1と図2から考えると，図1中の温暖前線は，A～Eの各地点を通る直線上を1時間あたり何km移動していますか。

温暖前線が直線上を1時間あたりに移動する距離を求め、グラフから温暖前線の1時間あたりの平均移動距離を考えることができるかを問う問題となっている。
与えられた資料から読み取れることを話し合ったり、問われていることから必要となる情報だけを抜き取るような授業を展開することが必要である。

４－５. 外国語（英語）科における課題の見られた問題について

学習指導要領の領域等

書くこと

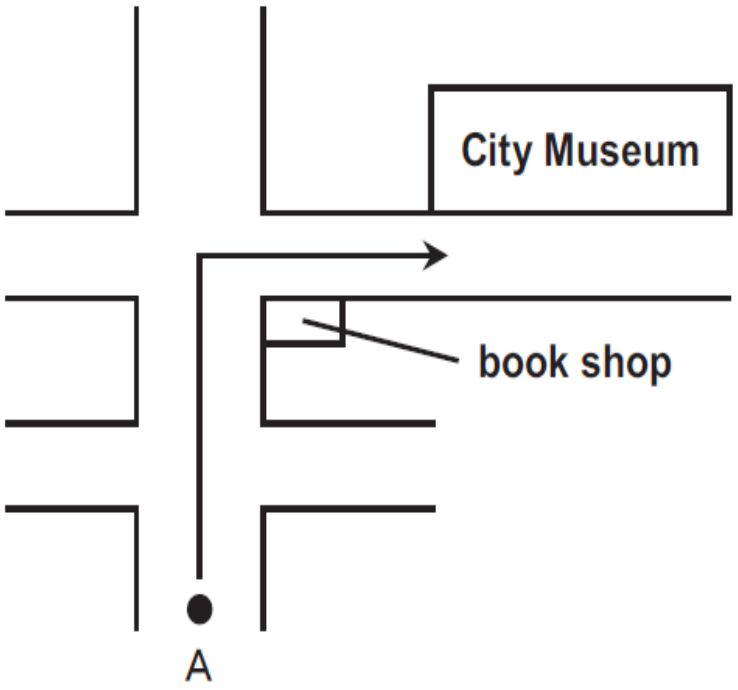
平均正答率等

7（3）	平均正答率	無回答率
柏原市	3.1%	38.4%
大阪府	6.1%	35.6%

正答　straight and turn right at the book shop

(3)　あなたは次の地図のＡ地点で外国からの観光客に出会い，市立博物館（City Museum）までの道案内をすることになりました。Go に続けて，下線部に**８語以上**の英語を入れ，矢印に沿った道順を指示する英文を完成させなさい。なお，その指示する英文のあとに，You will see it on your *left. が続きます。

（注）　left　左



地図を見て、市立博物館への道案内の情報を適切な英文で書くことができるかを問う問題となっている。授業では、道案内で必要となるフレーズの練習だけではなく、地域の地図を活用するなど、実際に活用する場面を設定して言語活動の充実を図るなど、4技能をバランスよく指導する必要がある。

本年度の結果からみる今後の取組み

～教育委員会として～

〇教員の指導力育成をねらいにした研修の充実
〇「書く力」の育成をねらいにした具体的な施策の提案及び実施
〇「読み取る力」の育成をねらいとした読書活動の啓発
〇家庭学習の取組み好事例の収集及び学校への周知

～学校として～

〇授業改善の推進
・資料を提示しそこから読み取れることを発表したり、考えたことを交流し書かせる等の活動の充実
・具体的な事象を式やグラフに表したり、根拠となるものを明らかにし、筋道を立てて説明するような活動の充実
・与えられた資料から読み取れることを話し合ったり、問われていることから必要となる情報だけを抜き取るような授業の展開
〇「書く力」の育成に向けた取組みの推進
〇幼小中の連続性を意識した取組みの推進

～ご家庭にお願いすること～

〇基本的生活習慣の定着
・決まった時間に寝起きしてリズムを意図的につくるようにしてください。
・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね８時間以上の睡眠を取るように促してください。
・朝ごはんを食べるよう促してください。

〇家庭学習習慣の定着
・家庭学習の時間を確保してください。（学年×10分）がめやすです。
　※中学第1学年生徒は、7年生とします。
・毎日の宿題ができているかを確認をお願いします。

〇スマートフォンやゲーム等のメディアについてのルール作り
・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決めてください。
・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認をお願いします。